

「生まれ育ったまちへの恩返し」

大東消防署東分署消防隊 消防士 阪口 優太（平成23年入職）

小さいころからの夢

私には幼い頃から消防士になりたいという夢がありました。それというのも自宅が大東消防署から近いということもあり、小さい頃からよく消防車を見かけていたからかもしれません。また、大東四條畷消防組合を受験した理由は二つあります。一つは中学生の頃に、大東消防署の職場体験に参加したことです。当時、



指導していただいた消防職員の方々は中学生の私から見ると、カッコ良くて逞しく、このような方々に私達は守られているのだと感じました。自分もいつかはこの人達のように市民から頼られ、守っていく存在になりたいと強く思ったのを覚えています。そしてもう一つが、小学生の頃から続けている野球を通して培ってきた体力や協調性、これらを地元である大東市で消防士として発揮し、人の役に立ちたいと思ったことです。

思いやる気持ち



幼い頃からの夢は現実となり、現在は消防隊として勤務しています。消防の仕事は体力や技術はもちろん必要ですが、隊員間の信頼関係やチームワークも大切となります。現場では一人でも自分勝手な行動を取ってしまうと、他の隊員を危険にさらしてしまうかもしれません。

私は常に、仲間に対して思いやりの気持ちを持ち、周囲への気配りをするよう心掛けています。それは隊員間の信頼関係を築き、現場において広い視野で活動するためです。私は仲間からも、そして市民の方々からも信頼してもらえよう消防職員を目指しています。

やりがいのある仕事

私は今、自分が本当に心からやりがいを感じる仕事に就けていることに感謝しており、幸せに思います。そして、幼い頃からの夢であった消防士としての仕事に誇りを持ち、充実した日々を送ることができています。市民の方から「ありがとう」と言ってもらえた時は何よりも嬉しく、これからもっと頑張ろうと思う瞬間でもあります。大東四條畷消防組合の良いところは、職員同士の面識や交流が深く、とても環境の良い職場であるところです。当消防組合を目指そうとしているみなさん。是非、私達と共に、大東市・四條畷市市民の方々を守っていきましょう。

